



爾今生涯



第8号 令和5年12月6日

担当 樹神 睦明

★一年の締めくくり 12月

あっという間に令和5年も終わりの月になりました。入学してからの高校生活はどうでしたでしょうか。この一年を振り返ってみてください。そして、新しい年を迎える準備として、冬休み前に、今年やり残したことを仕上げてください。12月はそういう月であります。

★感謝をしよう

感謝をしよう。感謝をすることは大切と知ってはいても、案外感謝をしていないことが多いのが人間です。だから、感謝についてちょっとここで考えてみましょう。冬になれば冬用の服を着ることができるのは当たり前、毎日ご飯を食べることができるのも当たり前、帰る家があることも当たり前、そんな当たり前すぎる生活をしていますよね。でも、それは何一つ自分で用意したものではないですね。それを直接用意してくれている保護者の気持ちを想像してください。そして、用意された物そのものを生産している方たち、物流の方たち、関わるすべての方たちの気持ちを想像してください。君たちを取り巻くすべてのことがうまくいっているのは周囲の方たちが頑張っているからです。今の生活は周囲の人のおかげであると自覚して欲しい。その考えにいたると、感謝の気持ちがあふれてくると思う。そうしたら、感謝の気持ちを表す行動をしよう。保護者には、何かしてもらったたびに「ありがとう ○○できてすごいね」と、周囲の働く人々には「いつもおつかれさま ありがとう」と。

★感謝の気持ちは相手のことを考えることから

感謝は、君たちの周囲の人たちがどんな思いで過ごしているのか、想像するところから始まります。自分が周囲の人たちとどう関わり、周囲の人たちは自分をどう思って接してくれているのか。そのことに気づくことで感謝の気持ちが生まれるのです。与えられることが当たり前では無く、周囲の人たちの思いによって与えられていることに気づいていくことが大切です。そして、今度は自分が周囲の人に与えられる人間になってくれることを願います。

☆12月（師走）の行事予定・月訓『感謝』

1	金	2学期期末試験④	8	金	常任委員会
2	土		9	土	
3	日		10	日	第一種電気工事士技能試験
4	月	2学期期末試験⑤	11	月	短縮(50分×3限) 保護者懇談会
5	火	全校朝礼 短縮(40分×6・7限) 献血	12	火	職業別ガイダンス 保護者懇談会
6	水	献血	13	水	社会研修
7	木	執行部合同会	14	木	短縮(50分×4限) 保護者懇談会

15	金	短縮(50分×4限) 保健講話 保護者懇談会	24	日	第二種電気工事士技能試験
16	土		25	月	
17	日		26	火	
18	月	短縮(50分×4限) 保護者懇談会	27	水	
19	火	2学期終業式	28	木	
20	水		29	金	閉門
21	木		30	土	閉門
22	金		31	日	閉門
23	土		1/9	火	3学期始業式

★突然の通知

突然の警報！自宅でくつろいでいると、全国瞬時警報システム（Jアラート）より緊急速報が通知される。携帯も警報音を響き渡らせ、テレビでは緊急速報を繰り返す。胸がドキドキして驚く。緊急地震速報、緊急津波警報など自然災害の連絡と同じように、弾道ミサイル発射(不確定)情報が流れてくる。戦争とは無縁の日常に、ミサイル被害を避けるための音声が続く。繰り返して流れてくる。

恐ろしい、と感じるのは一瞬。自分に被害がないことを確認すると、何か他人事のような気持ちで通知を聞く自分がある。繰り返されるテレビからの放送に30分もすれば興味を失う。「まだ放送、やってるの？」とあたかも緊急情報が煩わしい放送のように。ミサイルが落下するかもしれない恐怖は一瞬で遠いものになり、ただの情報に変わる。戦争は遠いできごと、テレビやインターネットの中の出来事になっている。

★戦争のある世界

ウクライナとロシア、パレスチナとイスラエルの戦争が連日報道されている。第2次大戦以降戦争状態に陥ったことのない多くの日本人は、平和な国日本がこれからも続くことを信じて疑わない。しかし、その平和維持の支出として、2023年度は防衛費を、過去最大の6兆8000億円余りを計上した。防衛力を戦争抑止力として使うための予算である。世界に向けて日本は防衛力を持っていると宣言し、平和の国日本を維持しようとしている。

★戦争のない世界へ

戦争のある世界で、戦争を起こさないためにはどうしたら良いのだろう。防衛力の増強は一時的な戦争抑止の力となろう。しかし、この方法だけでは、相手国との信頼関係改善にはつながらない。だから、私たちは相手国のことをもっともっと理解しよう。そして、自分の国のことをもっともっと理解してもらおう。戦争をしたくない、戦争をおこさない、という思いで外交をしているように、私たちも、もっともっと個人での交流をおこなおう。まずはお互いをきちんと理解し、お互いが相手に対する感謝の気持ちを持つ機会を増やしていくことを進めていこう。相互に理解が深まることで、戦争をおこさない世界に近づくことができると信じていたい。